

日中リメイクドラマの比較分析

周 翠彦

修士1年

19Q8136

1 研究概要：

本発表では、中国での日本ドラマの放送からリメイクへの経緯を解明し、変化の原因を明らかにする。また、2015年から現在にいたる、中国におけるリメイクドラマの比較分析を行う。この比較分析から、日中ドラマの違いを明らかにする。

2 研究目的：

中日文化交流に伴うドラマのリメイク行動から、中日ドラマの制作制度の違いを分析し、リメイク上の問題を解明する。この分析を行ないながら、日本ドラマの特徴を研究し、リメイクドラマが中国で賛否両論を引き起こした原因を明らかにしたい。それによって、これからの中国ドラマの発展に貢献したいと考える。

また、中国市場ではどのようなタイプのドラマ作品を求めているのかを明らかにして、中日の文化的アイデンティティと共同性を発見することもできるであろう。本研究を行うことで、日本文化と「韓流」がアジアに影響を与えたように、中国も同じような影響力を持つ文化力を輸出できるかについて展望したい。

3 研究背景：

①中国での日本ドラマの放送

第一段階（1980年代～90年代前半）

1978年、中国と日本は「中日和平友好条約」（日本では「日中平和友好条約」という）を締結し、中日の文化交流が始まった。1981年、上海テレビ局で中国語吹き替えの日本ドラマ「姿三四郎」が放送され、それは中国のテレビ局で初めて放送された日本のドラマとなった。大ヒットとなった後、中国中央電視台

（CCTV、日本語名は「中国中央テレビ」）は1983年に「燃えろアタック」を放送した。その後、1984年には「赤い疑惑」を放送し、1985年には「おしん」が放送された。これらのドラマはすべて高い視聴率を収めた。この時代のドラマは主に家庭に関する「ホームドラマ」である。「ホームドラマ」は、庶民の家庭を舞台とし家族間の葛藤もしくは、家庭内問題などをユーモアとパトスを混ぜて描写したドラマをいう。¹

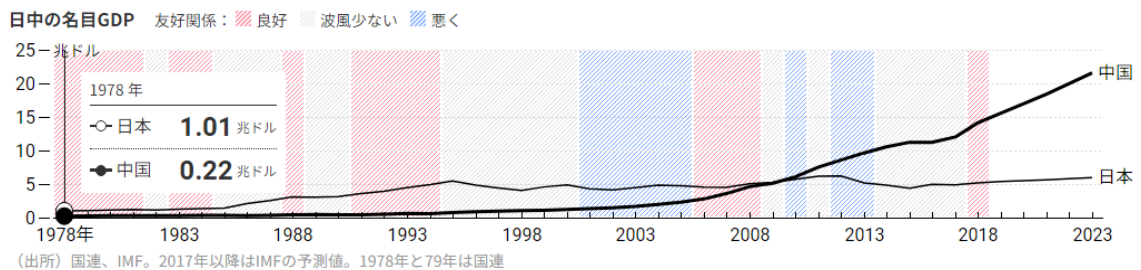
第二段階（90年代後半～21世紀初期）

90年代前後、バブル経済で消費が過熱していった日本では従来の「ホーム

¹ パク・ジャンスン『韓流、韓国と日本のドラマ戦争』（韓国語、コミュニケーションブックス、ソウル、2008）
p. 123

ドラマ」が姿を消し「トレンドドラマ」という新しいジャンルが主流となった。中国の大衆文化が次第に発展してくると、1992年から日本のトレンドドラマが中国の各大都市で急速にその人気を高めた。「トレンドドラマ」は、東京を主な舞台とした若者の恋愛、仕事、人間関係、生きざまを描いた日本の民放制作のドラマを指す。²「トレンドドラマ³」の人気は日本を超え、東アジアでも話題を呼んだ。中国で放送された「東京ラブストーリー」、「ひとつ屋根の下」は人気を集めた。しかし、中国大陸での日本ドラマ放送のピークは1993年で、以後は次第に減少していった。

以上のように、二つの時期にわけてみると、日本ドラマの中国での放送の経緯が一目瞭然である。また、下の図によると、中国と日本の平和友好条約が発効してから、中日の関係が日々変わっており、両国友好関係の変化に伴って、文化交流も変化しつつあることがわかる。さらに、GDPの変化により、中日文化交流の方式も変わっていたといえるだろう。



日中関係変化図⁴

② 「韓流」ブームから「限韓令」へ

崔保国（2010）は、「90年代中後期から『新興勢力』としての韓国ドラマが中国でその影響力を拡大し続け、中国の文化市場に激しく押し寄せた『韓流』を形成した。90年代後半から中国大陸での日本のテレビドラマの放送数は次第に減少し、中国の主流のテレビチャンネルから姿を消して行った」⁵と論じている。

その代りに、韓国ドラマが中国のテレビに入った。北京テレビ研究員の高菲（2009）は、韓国ドラマが中国で人気がある三つの理由を「人気の第1の理由は、韓国ドラマで示されている慎み深さ、自己放棄、美德などの韓国の伝統的な価値観が中国のそれと似ているからだと思います。第2の理由は、韓国ドラマに出てくる俳優達が中国人の美的感覚にぴったりと合っている点です。化粧の仕方、会話、行動の全てがとても印象的でエレガントな上に、テーマソングも美しいですね。第3の理由は、そのロマンティックなラブストーリーで、女性視聴者の理想的な恋愛観に訴えるものがあるからです」（高2009：7）と語った。

² 岩瀬功一『グローバル・プリズム〈アジアドリームとしての日本のテレビドラマ〉』（平凡社、2003）p.15

³ インターネット上の辞書「日本語俗語辞書」は、「トレンドドラマとは英語の“trendy（流行を追う）”と“drama（ドラマ・劇）”から成る和製英語で、1990年前後の恋愛ドラマに対して使われた。月9の人気とともに普及した言葉だが、2000年に入り、当初トレンドとされていたものが風化したかの如く使われなくなった。」

（<http://zokugo-dict.com/20to/trendy-drama.htm>）と定義している。

⁴ 『日本経済新聞』：「友好・対立・協調…揺れた日中の40年」（2018.10.23公開）

（<https://vdata.nikkei.com/newsgraphics/cj-postwar-history/>）

⁵ 崔保国（2010）「中国における日本のテレビドラマ」第19回 JAMCO オンライン国際シンポジウム。

（<http://www.jamco.or.jp/jp/symposium/19/6/>）

2016年、中国と韓国の関係が悪化しており、『韓流』輸入に制限が加えられてきた。これまで韓流ブームが長く続いていた中国は、やむなく日本をメインとする他の国の資源の発掘に移行した。

③日本ドラマの放送からリメイクドラマの制作へ

中国における日本ドラマの放送方法は、日本ドラマの IP (知的財産権) を購入し、日本ドラマをリメイクして放送する形である。フジテレビとSMGピクチャーズは、2015年11月に戦略的パートナーシップを締結し、ドラマ『プロポーズ大作戦』(2007年)、『デート～恋とはどんなものかしら～』(2015年)の中国版を共同制作し、中国で放送・配信してきた。⁶

リメイクは他国の作品を「改変」して輸入することである。芳賀恵ら(2014)は「海外のドラマや映画を原作にしたリメイクも、一種のフォーマットの共有として、コンテンツのグローバル化の一般的な傾向として定着している」(芳賀・金・玄 2014:70)と述べている。また「リメイクはドラマという大衆文化の越境的な再生産の問題であると同時に、他文化圏の人間関係や社会制度という文化の受容と変容の過程でもある」と論じているように、リメイクは実は間接的な文化交流とも言えるであろう。

作品のおもしろさを求める声が日々高まり、中国では日本の IP (知的財産権) 購入がピークを迎えている。近年、中国では 10 本以上の日本ドラマがリメイクされたが、すべて失敗に終わった。それにも関わらず、日本ドラマをリメイクする勢いは暫く衰えそうにない。

4 研究方法：

2015年～今まで中国でリメイクした日本ドラマ (作品)

原作		リメイク版(日本語訳)	
花より男子	2005年	流星花園	2018年
プロポーズ大作戦	2007年	求婚大作戦	2016年
深夜食堂	2009年	深夜食堂	2017年
鍵のかかった部屋	2012年	上鎖的房間 (鍵のかかった部屋)	2019年
問題のあるレストラン	2015年	問題餐廳 (問題レストラン)	2016年
デート～恋とはどんなものかしら～	2015年	約會戀愛究竟是什麼(デート、恋とはどんなものかしら)	2017年
家を売るオンナ	2016年	賣房子的人 (家を売る人)	2019年
地味にスゴイ! 校閲ガール・河野悦子	2016年	不負時光 (時間を無駄にしない)	2019年
東京女子図鑑	2016年	北京女子図鑑 上海女子図鑑	2018年

2015年から、中国がリメイクした日本ドラマの中で、以下の作品を選ん

⁶フジテレビジョン - ニュースリスト (https://www.fujitv.co.jp/company/news/181017_01.html) (2019年11月20日取得)

で、日本の原作ドラマと比較分析する。

比較分析①

「花より男子」（日本）と「流星花園」（中国）、「プロポーズ大作戦」（日本）と「求婚大作戦」（中国）、「深夜食堂」（日本）と「深夜食堂」（中国）この六つのドラマをそれぞれ比較分析を行う。

比較分析②

「問題のあるレストラン」（日本）と「問題レストラン」（中国）、「家売るオンナ」（日本）と「家売る人」（中国）、「地味にスゴイ！ 校閲ガール・河野悦子」（日本）と「時間を無駄にしない」（中国）この六つのドラマをそれぞれ比較分析を行う。

補足・用語説明：

リメイクドラマ

「ブリタニカ国際大百科事典」によって、リメイクは、「過去に発表されている映画作品の新版。オリジナル作品に対するオマージュから再映画化することもあるが、営利本位に原作や第一作の持つ高い知名度を利用し、焼き直しをする場合もある」

(<https://kotobank.jp/word/%E3%83%AA%E3%83%A1%E3%82%A4%E3%82%AF-162260>)と定義している。リメイクドラマとは、過去に制作されたドラマ作品の新版ともいえるだろう。本発表において、「リメイクドラマ」は、主に日本が制作したドラマ作品を基づいて、中国が新しく制作するドラマ作品のことである。

日本ドラマ

1953年、日本テレビは民間放送として最初にテレビ放送を開始した。それは日本のテレビ時代の始まりである。1980年代までは当初1クールまたは2クールで制作予定が人気が出ると延長されて最終的に1年以上続くドラマになるということがよくあったが、近年は概ね3ヵ月から1年間のインターバルを経てから次のシリーズが製作されているものが大半を占めている。切れ目に特番を挟むことも慣行化し、9～11回程度が通常である。週1回の放送スピードで、1話のトータル放送尺は、CMを挟み、1時間の番組が多い。また、日本のドラマは撮影と放送はほぼ同時に行う。撮影を続けながら週に一度放送するのが常だ。そのため、視聴率により、ストーリーの内容や方向が変わる可能性もある。

中国ドラマ

王佳悦（2003）は「中国は最初のテレビ放送局、北京テレビ局（中国中央電視台の前身）を1958年春に開設し、同年9月2日から放送を正式に始めた」（王 2003：1）と語った。また、中国のテレビドラマの放送制度について「中国ではまずドラマをすべて撮り終えた後、毎日1話から3話ずつを2週間ほど続けて一気に放送する」と述べている。日本と同じく、1話のトータル放送

尺は、CMを挟み、1時間である。だが、一つのドラマの尺は日本より多く、30話～60話の番組が多い（60話以上のドラマもある）。

参考文献：

- 王佳悦(2003)「中国のテレビ放送に関する考察」大場ゼミ卒業研究。
https://human.kyotogakuen.ac.jp/pdf/association/c2006_01.pdf (2018年8月10日取得)
- 崔保国(2010)「中国における日本のテレビドラマ」第19回 JAMCO オンライン国際シンポジウム。
<http://www.jamco.or.jp/jp/symposium/19/6/> (2018年5月28日取得)
- 芳賀恵・金周英・玄武岩(2014)「リメイク作品から見る日韓ドラマの「社会性」：『ハケンの品格』(日)と『職場の神』(韓)を題材に」『国際広報メディア・観光学ジャーナル』18, 69-90。
https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/55172/1/Jimcts18_05_Haga.pdf (2018年5月28日取得)
- パク・ジャンスン『韓流、韓国と日本のドラマ戦争』（韓国語、コミュニケーションブックス、ソウル、2008）p. 123
- 岩渕功一(2003)『グローバル・プリズム〈アジアドリームとしての日本のテレビドラマ〉』（平凡社、2003）p. 15
- 高菲(2009)「中国のテレビ業界の現状と傾向」ACCUニュース No. 371 2009. 1
https://www.accu.or.jp/jp/accunews/news371/371_03.pdf (2019年11月15日取得)
- 米倉律(2008)「多文化社会における放送の役割に関する調査・研究に向けて」放送研究と調査 58(11), 68-75, 2008-11